

## 特集 2

# 令和元年度鹿児島市友好代表団視察報告

令和元年11月17日～23日

市議会議員 崎元 ひろのり

市議会議員 杉尾 ひろき

### 1 訪問先 中華人民共和国（長沙市，張家界市，上海市）

### 2 主な行程

月 日	主 な 行 程
11月17日（日）	出発式（鹿児島→上海） 上海鹿児島県人会との意見交換会
11月18日（月）	移動（上海→長沙） 長沙市内視察（橘子洲） 長沙市内視察（太平街） 長沙市外事弁公室主催歓迎宴
11月19日（火）	長沙市内視察（湖南省博物館） 長沙市内視察（長沙都市計画展示館） 長沙市内視察（長沙図書館） 長沙市人民政府表敬及び歓迎宴
11月20日（水）	移動（長沙→張家界） 張家界市内視察（土司城，軍聲書院）
11月21日（木）	張家界市内視察（金鞭溪景区） 張家界市内視察（黄龍洞） 張家界市内視察（張家界大峡谷玻璃橋）
11月22日（金）	張家界市内視察（天子山景区，袁家界景区，十里画廊） 移動（張家界→上海）
11月23日（土）	帰国（上海→鹿児島） 解散式

### 3 内 容

第1日 11月17日（日）

#### ① 鹿児島空港～上海浦東空港

11月17日（日），鹿児島中央駅において，松窪建設局長を団長とする令和元年度鹿児島市友好代表団は，午前9時48分に新幹線にて鹿児島中央駅を出発した。午前11時13分に博多駅に到着し，タクシーで福岡空港へ移動した。チェックインカウンターでの手続き後，予定通り搭乗し，午後2時30分，福岡空港を出発した。

午後3時15分（※現地時間は日本から1時間遅れ），約100分間のフライトで上海浦東空港に到

着した。入国審査はスムーズに進み、全員無事、中国に入国した。

ホテル（虹橋錦江大酒店）にチェックインし、同ホテル内の上海鹿児島県人会との意見交換会会場へ向かった。



② 上海鹿児島県人会との意見交換会

- 1) 場 所 虹橋錦江大酒店
- 2) 時 間 19：00～20：30
- 3) 対応者 8名

	氏 名	役職等	備 考
1	久保 周也	京セラ（上海）有限公司 董事兼総経理	県人会会長
2	田中 浩典	鹿児島銀行上海駐在員事務所 所長	県人会副会長
3	有蘭 浩武	前川迈坤国际贸易（上海）有限公司 総経理	
4	戴 楠	薩摩酒造（上海）商貿有限公司 総経理	
5	吉崎 裕介	在上海日本国総領事館 副領事	
6	城 康平	上海佳途国際旅行社有限公司 営業部主任	
7	伊瀬知 強	鹿児島県上海事務所 首席代表	
8	湯ノ口 恒	鹿児島県上海事務所 代表	

4) 概 要

松窪団長からの主催者代表挨拶、久保上海鹿児島県人会会長からの挨拶、乾杯の後、意見交換を行った。

5) 主な要旨

- 中国の経済成長は衰えを見せず、3年後には名目GDPシェアで米国にかなり迫ると予想されている。ただし、変化のスピードが速すぎ、依然として旧来の中国も併存しており、どこを見るかで評価が異なる。
- 最近の中国の消費の特徴は、収入の増加に伴い、生活水準の向上を求めるようになり、信頼できるものなら少し高くても買うようになった。注目される成長市場は、シックスポケット（両親、両祖父母の財布）の高い購買力に支えられる乳幼児市場のほか、消費習慣が節約型から消費型に変化しつつある高齢者市場など。

- 一人っ子政策の影響で、中国は2030年前後に人口減少局面に突入することが予想されている。
- 今回の公務を通じて、ぜひ中国の変化を感じていただければと思う。



第2日 11月18日（月）

① 上海虹橋空港－長沙空港

友好代表团一行は、朝食後、上海虹橋空港を定刻の午前10時20分の便で長沙空港へ向かった。長沙空港では、長沙市外事弁公室職員の出迎えを受けた。



② 長沙市内視察（橘子洲）

橘子洲は、長沙市街の西側を貫流する、市内最大の河川、湘江の流れに位置する、全長5 kmほどの長大な中洲である。古来より良質の柑橘類を産出したことよりその名がついたという。園内には、温州ミカンやボンタン、桜島小ミカンのようなものなど、多品目の柑橘類が実っていた。

そのほか、域内には、公園、地下鉄の駅など、長沙市の発展、開発を反映した様々な施設が混在しているが、一際目立っていたのは若き日の毛沢東を模した石像であった。毛沢東が青年時代に橘子洲で過ごしたことから建立された石像は、高さ32m、幅41m、全周83mにも及び、1個あたり約250kgの石材を組み合わせたものである。

石像を眺める位置によって、毛沢東の表情が若干変化して見えたことが印象的であった。



③ 長沙市内視察（太平街）

太平街は、長沙市の東西のメインストリートである五一大道沿いにある中国の昔の街並みを再現した通りである。昔ながらの店舗に、近代の世界展開する店舗等が混在する趣のある商店街で、平日にも関わらず、多くの市民や観光客で賑わっていた。



④ 長沙市外事弁公室主催歓迎宴

- 1) 場 所 火宮殿
- 2) 時 間 18:00～19:30
- 3) 対応者 孔亦平副主任，刘芳長沙市人民对外友好協会副会長 ほかに2名 計4名
- 4) 概 要

孔亦平副主任の挨拶に引き続き、乾杯、歓談を行った。



第3日 11月19日（火）

① 長沙市内視察（湖南省博物館）

湖南省博物館は、1956年に開館、2017年にリニューアルオープンした。博物館から東に4 kmほどの場所にある馬王堆漢墓と呼ばれる墓層群から発掘された、古くは2千年以上も昔の収蔵品が展示されている。

馬王堆漢墓は、前漢初期の長沙国で丞相を務めた利蒼夫妻とその息子の墓3つからなり、1号墓には妻、2号墓に利蒼、3号墓に息子が埋葬されていた。

妻の遺体は館内にミイラとして展示されている。

また、1号墓のT型帛画は、天上世界や人間界、地下世界が描かれ、当時の人々の死生観が見事に表現されており、ミイラとともに特に貴重な収蔵品とされている。



## ② 長沙市内視察（長沙都市計画展示館）

長沙都市計画展示館は、2015年に開館。長沙市の歴史・都市計画・経済・産業・環境・教育・市民参加などの機能が集約された展示施設である。ホログラフィック映像、レーザーショー、3D映画館、VR体験のコーナーが設けられ、先進的な技術で都市の素晴らしさを表現している。現在、人口が815万人、この1年間で50万人以上の人口増の長沙市の現状を実感することができた。



## ③ 長沙市内視察（長沙図書館）

長沙図書館は、市レベルの総合的公共図書館として、1960年にオープンし、2015年に改修された。館内に、文献室・子ども図書館・多目的ホール・24時間セルフサービス図書館・カフェコーナー・書店など機能別にエリアが設置されている。書籍約200万冊、電子書籍約100万冊、書庫にはまだ余裕がある。スタッフは約100人、平日来場者数は約1,000人。

文化総合施設を目標に、講座・研修・展示・閲覧普及など、1年を通じて行っている。



④ 長沙市人民政府表敬及び歓迎宴

- 1) 場 所 長沙世紀金源大飯店  
2) 時 間 17:30～19:30  
3) 出席者 譚慧慧 中国共産党長沙市委員会副秘書長  
李平 長沙市政治協商会議副主席・長沙市体育局局长（歓迎宴のみ）  
鄭力虎 長沙市外事弁公室主任  
彭羅生 長沙市人民代表大會民族・僑務・外事委員會副主任委員  
胡漢清 長沙市住宅建設局副局長  
刘芳 長沙市人民對外友好協會副會長

4) 概 要

譚慧慧中国共産党長沙市委員会副秘書長及び松窪団長の挨拶に引き続き、森市長からのメッセージ伝達、記念品交換が行われ、歓迎宴では和やかな雰囲気の下、歓談が行われた。歓迎宴後、国際ソロプチミスト鹿児島からお預かりしていた、経済的援助を必要とする児童への多喜奨学金を、松窪団長から鄭力虎長沙市外事弁公室主任へお渡しした。

5) 譚慧慧中国共産党長沙市委員会副秘書長の挨拶の要旨

- 松窪団長をはじめ、鹿児島市友好代表団の皆様、ようこそ長沙市へいらっしゃいました。長沙市を代表して心から歓迎申し上げます。
- 4月に長沙市から胡書記をはじめとする友好代表団が鹿児島市を訪問した際には、森市長をはじめ関係の皆様歓迎いただき感謝している。
- 長沙は3千年余りの長い歴史があり、この間都市の名前と位置が変わったことがない。これは中国でも珍しい。
- 馬王堆漢墓や岳麓書院などの文化遺跡が輝き、岳麓山・橘子洲など、山、水に恵まれた観光都市である。
- 長沙は環境に優しい住みやすい街で、成長が早い都市である。環境に優しいことを重視しており、森林カバー率は53%である。
- 立地的に交通の要衝であり、リニアモーターカーに代表される高速鉄道の要の都市である。
- 2018年の総生産は、中国の全都市の中で6位となっており、質の高い成長を続けている。
- 今年6月のG20では、習近平主席が、各国で力を合わせた質の高い世界経済の実現をテーマにスピーチを行った。中日で連携し、世界平和に貢献していきたい。
- 11月16日には、長沙市で日本企業向けのプロモーションを開催し、100以上の企業、200名以上の参加があった。
- 長沙市と鹿児島市においては、経済、貿易、青少年交流など、実務的なレベルで発展のチャンスを共有していきたい。
- 今後、政府、民間を問わず交流を進め、美しい未来を切り開いていきたい。
- 結びに、ご来賓の皆様のご活躍、ご健康をお祈りします。長沙滞在中、楽しんでい



ただきたい。



第4日 11月20日（水）

① 張家界市内視察（土司城，軍聲書院）

土司城は、張家界市の全民族の85%を占める土家族の王族の城であり、12階建て48m。釘を使用しない木造建築となっている。20年ほど前に一部修復された。城内には、300人ほど収容できる宴会場のほか、宿泊施設も備えていたとのことであった。土家族の衣装や生活に使用した銀製品なども展示されており、張家界の民族文化を実感することができた。

軍聲書院は、土家族の李軍聲氏（大学講師）が創作する砂絵の展示館である。李軍聲氏は砂絵の発明者とされ、その作品は、砂にとどまらず、植物なども使用しながら、張家界の風景を描いている。館内の作品は、撮影禁止であった。



第5日 11月21日（木）

① 張家界市内視察（金鞭溪景区）

金鞭溪景区は、1982年に中国で初めて国家森林公園に指定された公園内にある。長い年月をかけて隆起し浸食された切り立った岩山を見上げ、石畳等で舗装された散策道路が整備された溪谷沿いには、野生の猿も多数生息する自然豊かな場所である。



② 張家界市内視察（黄龍洞）

黄龍洞は1983年に発見されたアジア最大級の鍾乳洞。石灰岩が地下水の浸食により何万年もかかって形成された典型的な鍾乳洞である。全長は30kmほどあり、観覧可能な区域は6kmほど。途中、遊覧船による見学も含まれるほど巨大な洞窟で、川の全長は2,820m、遊覧可能な区域は800mほど。特異な光景、スケールの大きさに団員一同驚かされた。



③ 張家界市内視察（張家界大峽谷玻璃橋）

張家界大峽谷玻璃橋は、2016年8月にオープンした全長430m、幅6m、地上からの高さ約300m地点に吊るされた世界最長、世界最高度を誇るガラスの吊り橋。

特殊加工された強化ガラスを約100枚使用し、一度に最大800人、一日では最大8,000人ま





で乗ることが可能とされている。橋の中心部分がガラス張りであり、橋を渡る際にカメラはサイズを問わず（iPad等のタブレットも）、先のとがった傘なども持参禁止。携帯電話は通信機器だからとの理由で持参可能。

現在の中国の成長を象徴するスケールの建築物である。

#### 第6日 11月22日（金）

##### ① 張家界市内視察（天子山景区，袁家界景区，十里画廊）

天子山景区は、1992年に世界遺産に登録された「武陵源自然風景区」の一つである。高さ200mを超える数々の石柱がそそり立つ特異な景観を造り出している。

天子山へはロープウェイを利用し、壮大な風景を眺めながら山上へ到着した。

袁家界景区は、映画『アバター』の舞台となり、世界的に注目された奇観は、まさに絶景であり、地球の鼓動、自然の力の偉大さを実感した。

十里画廊は、天子山へと続く登山道となっており、トロッコ列車が走る一部分を視察。見上げる奇岩もまた絶景であった。



##### ② 張家界空港－上海浦東空港

友好代表団一行は、張家界空港を定刻の午後10時45分に飛び立ち、上海市へ向かった。上海浦東空港到着は深夜0時40分で、ホテルチェックインは深夜1時30分頃であった。

第7日 11月23日（土）

① 上海浦東空港－鹿児島空港

上海浦東空港でのチェックインカウンター，保安検査場は大変混み合っており，手続きに1時間40分ほど要したが，友好代表団一行は定刻の午前9時50分に出発。

午後0時30分（日本時間）に鹿児島空港へ到着し，関係者の出迎えを受けた。

ロビーで解散式を行い，松窪団長から団員と出迎えの関係者に対し，無事全日程を終了できたことへの感謝の挨拶があり，訪問団の解散となった。



#### 4 所 感

（崎元 ひろのり）

2010年に日本の国内総生産（GDP）を抜いて，世界第二位の経済大国となり躍進を続ける中国とはどんな国なのか，短期間ではあるものの，今回の長沙市との友好交流を通して，中国の近代化の現状や歴史・文化に触れる機会を頂いたことに期待を抱きながら，空路，経由地の上海へ向けて福岡空港を飛び立った。

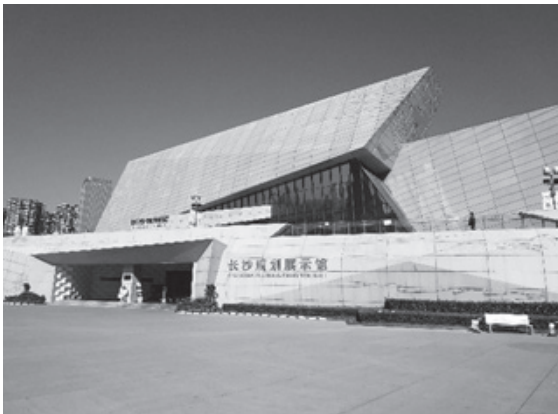
上海では，上海鹿児島県人会との意見交換会の席上，久保会長から「中国は，約14億人のかかえる巨大な国であり，場所により，文化や風習も違い，自分が見たものが中国と思わない方が良い」，「香港問題は，話題にしない方が良い」等の指摘も頂いた。上海は，行程上，夜のみ滞在で，視察の予定がなかった為，ホテルから地下鉄で移動し，情緒ある歴史的建築群と近未来的な高層ビル群が対照的にライトアップされた上海の三大夜景とされる，とても美しい光景を目にすることができ，国際都市，上海の印象を心に焼き付けた。



翌朝、上海から空路、約2時間で長沙空港に降り立った。

長沙市初日の視察では、毛沢東の若き頃の石像で有名な市内最大の河川、湘江の中にある長大な中州である橘子洲を訪れたが、高さ32m、幅41mの石像のスケールの大きさと平日というのに観光客が大勢いたのには驚いた。その夜の長沙市外事弁公室主催の歓迎宴ではリラックスした雰囲気の手厚いもてなしを受けた。

長沙市2日目は、湖南省博物館、長沙都市計画展示館、長沙図書館を視察。博物館では2千年以上前の王墓の遺跡が保存されており、当時の暮らしぶりを物語る食器・衣類等の副葬品の数々が展示され、中でも、わずか49グラムのシルクの衣装があり、その技術の高さには驚嘆させられた。都市計画展示館では、入り口近くに、長沙市の友好都市が、壁一面の電飾パネルで示されており、現在、正式に長沙市が協定を結んだ都市として、世界にアジア、ヨーロッパ、アフリカなど鹿児島市を含む13都市が明示されている。現在「米中貿易戦争」といわれる相手方であるアメリカの友好都市がセントポール市などを含む4都市あったことは意外であった。展示内容は、長沙市の過去から現代、未来に続くまちづくりの流れが、総論的に理解できるよう工夫されており、各展示コーナーが映像等を交えてパネル展示され、非常に分かり易かった。図書館には、コーヒーを飲みながら読書できる施設も併設されており、オープンなイメージであった。また友好都市のコーナーがあり、鹿児島から過去、贈呈したという棕鳩十の書籍等が並んでいた。



夕方からの長沙市人民政府表敬は、宿泊先のホテルの大広間で行われた。譚慧慧中国共産党長沙市委員会副秘書長の凜としたご挨拶の声は今でも耳に残っている。歓迎宴では、互いに打ち解け、桜島や温泉が話題に出るなど和んだ雰囲気で友好を深めた。

行程後半は、長沙市から約4時間のバス移動で同じ湖南省内の張家界市を訪問し、世界自然遺産である武陵源などを視察し、中国の雄大な自然を満喫して帰路に就いた。

今回の友好訪問では、諸視察や長沙市職員、通訳の方々との懇談を通して中国という国の一端を理解できた気がする。印象に残った事柄などに触れてみると、まず、人民政府表敬時の譚慧慧氏をはじめ長沙図書館長など多くの女性が活躍する姿を目の当たりにしたことで、中国で言われる「女性は天の半分を支える人たち」という考え方が浸透していることを実感した。世界経済フォーラムによる、所謂、男女平等ランキングで中国が日本よりずっと格上であるのも頷ける。また、「一人っ子政策」を1979年から2015年まで導入してきた反動として、特殊出生率が2017年で1.24と、日本より低い状況で有り、今後、少子高齢化のペースが日本などの先進各国より早いペースで進むとされているが、今回の懇談等を通して得た感覚では、まだ、市民レベルでは、その危機感を抱くま

ではなっていないように感じた。夕方、幼稚園や小学校の門前に大きな人だかりができていて、面に良く遭遇した。送り迎えを義務化しているところも多いらしく、日本の治安の良さを改めて確認する光景であった。また、中国の景気を支える不動産市場の動向にも関心を持って観察した。外観上は、マンション等の建設ラッシュが依然、持続しているように見えたが、夜に明かりが灯らない住宅群もあり、空室率の状況が気になった。今や815万人となった長沙市の人口増の大きな要因と考えられる周辺部からの人口移動がいつまで続くのか、日本でも東京一極集中の是正に苦勞しているが、中国においても長沙市や上海市など、大都市への一極集中が引き起こすひずみが生じていることは容易に推察できる。

帰国後、県の日中友好協会会長で鹿児島市日中友好協会名誉顧問の海江田順三郎氏や鹿児島市日中友好協会副会長で中国長沙市人民対外友好協会海外理事を務めておられる天達美代子氏らと懇談する機会があった。海江田氏からは、長沙市が友好都市に決まるまでの経緯や「中国の西郷隆盛」とも呼ばれ、孫文と共に辛亥革命（1911年）を指揮した長沙市出身の革命家『黄興』が南洲翁を慕って鹿児島に墓参（1909年）に来たことなどをご教示頂いた。また、天達氏が毎年のように長沙市を訪れ、民間交流を深めておられることを知った。お二人の話を伺って改めて、長沙市との縁の深さを確認するとともに、これまで、営々と友好関係を支えて来られた方々のご努力に敬意を表したい。

これまでの友好都市との交流のあり方をしっかりと精査、検証した上で、今後、真に交流が必要な分野の研究、分析などを進め、民間交流を更に発展させるための方策などを探っていく必要性を感じた。

最後に今回、長沙市への友好訪問に参加させて頂いたことに感謝し、今後の両市の交流が益々発展することを祈念して報告、所感を締めくくる。



（杉尾 ひろき）

8年ぶり2度目の機会を頂いた長沙市への友好代表団としての訪問は、改めて中国の経済成長の勢いを感じ、また長きにわたる本市との交流に対する友誼を強く感じる実り多き内容となった。また、訪問時期は6月からはじまった香港での大規模な反政府デモが続く中であり、訪問前は心配をしていたが、現地は意外と落ち着いた雰囲気であった。

前回訪問時と比較すると、この10年で約704万人であった人口は現在約815万人に成長しており、

高層ビル群や当時はなかった有名ホテルも立ち並ぶ近代都市へと変貌を遂げており、かつて自転車王国といわれていた中国のイメージから一転して多くの渋滞の発生や道路網の整備も進んでおり、すっかり車社会と化している。



やや余談になるが、そうした一方でやはり市民にとって自転車は身近な存在であるようで、道路には必ず自転車専用道が整備されており、何より驚いたのが町のいたるところにシェアサイクルが放置されており、自転車に張り付けられているQRコードを読み込めば誰でも乗車できる仕組みになっている。

せっかくの機会であったので、隙間の時間を見つけシェアサイクル「M o b i k e」というサービスを利用して、長沙市の市街地を周遊してみた。アプリを入れると、周辺に放置してある自転車のGPS情報が表示され、空いている自転車ならどれでも利用して良い。また、使い終わった後はどこでも放置して良いらしく、近年はこの自転車の放置が社会問題化しているとのことである。いくつかのシェアサイクルのビジネスがあるが日本の



のクレジットカードでの利用が出来るのは今回利用した「M o b i k e」だけであり、その他は銀聯（ぎんれん）カードの登録がなければ利用できない。中国国内のキャッシュレスはほぼ同様の仕組みになっており、このことは観光客向けにはなっていない。逆の視点からいえば、本市のコミュニティサイクル「かごりん」においても中国からの観光客から見ると使い勝手が悪いものになっており、銀聯（ぎんれん）カード等での支払いも検討する必要があるのではないかと感じた。

話を本題に戻すと、前述の報告書にある通り、長沙市政府の計らいで友好代表団としての表敬訪問や歓迎宴に加え様々な施設や取り組みについて視察を行わせて頂いたが、特に興味を引いたのが「長沙都市計画展示館」の視察であった。

本市においても「都市計画」はあるが、自治体が定める都市計画は行政内部だけのものになりがちであるが、展示館として市の進めてきた都市計画の変遷と、これから先、どのような計画で都市を発展させていくのかを広く市民に視覚的に理解してもらう取り組みという発想はこれまでなく、展示館という形はとらないにせよ、同様の趣旨での取り組みは本市においても導入することは有意義であるのではないかと感じた。

紙面に限りのある中で、様々な経験を積ませて頂いた一端について報告並びに所感を述べさせていただいたが、こうした海外の自治体の取組みは国内にいると思いつかない発想による多くのヒントが含まれており、議会としてもこうした海外での視察や姉妹都市との交流の機会を増やすことは議会の権能、また資質向上に繋がり市政発展の一助となることを改めて感じ、今回訪問させて頂いた長沙市とのますますの交流・発展がはかられることを祈念して、報告とさせて頂きたい。

